

## 【コロナワクチン、3224万回分 定期接種は10月1日開始

9/2 共同通信

厚生労働省は2日、今シーズンの新型コロナウイルスワクチンの供給量が約3224万回分となる見込みだと専門部会に報告した。10月1日から始まる定期接種の対象である65歳以上の高齢者と基礎疾患を持つ60～64歳の人の8割程度に行き渡る量という。

厚労省によると、メッセンジャーRNA（mRNA）ワクチンが約2527万回分、mRNAが細胞内で複製される「レプリコン」という新しいタイプが約427万回分、組み換えタンパクワクチンが約270万回分。また、インフルエンザワクチンの供給量は2734万本の見込み。昨シーズンの3135万本と比べ少ないが、適切に使用すれば不足は生じない状況としている。

これまでのmRNAワクチンでは、mRNAはヒトの体内でスパイクタンパク質を産出させるとすぐに消えていましたが、レプリコン・ワクチンではヒトに注射すると、そのmRNAが体内で自己増殖を続けます。そのため、「次世代型」ではなく、「自己増殖型（レプリコン）」を頭に付けて呼称することもあります。免疫反応を呼び起こすmRNAが自己増殖を続けるわけですから、少量の接種で長期間の効用が出ると期待されています。

**インフルエンザと新型コロナのワクチン 今シーズンの供給量決定**

9/2 日テレニュース



<https://news.yahoo.co.jp/articles/ae04f7eb61c0227300c36b3c635f8dd092ce9752>

今シーズンのインフルエンザと新型コロナウイルスのワクチンの供給量が決まりました。厚生労働省の分科会は、今年の秋冬に接種するインフルエンザワクチンの供給量を約2734万本、新型コロナワクチンを約3224万本とすることを了承しました。厚労省によりますと、インフルエンザワクチンは去年の供給量と比較すると少なくなっていますが、近年の平均使用量を超える供給量になる見込みだということです。また、新型コロナワクチンは、10月1日から高齢者や60歳以上で重症化リスクの高い人を対象とした定期接種がはじまる予定ですが、過去の高齢者の接種率などを考慮しても足りる見込みだということです。